

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	ごみ減量化啓発事業											
測定年度	2020(R2)年度			部	環境部			課	減量業務室			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4				
総合計画体系	基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち										
	施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち										
	実行計画名	25-1.ごみ総量の削減と資源化の推進										

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	1982(S57)年度		年度	~	年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	市内小学校の4年生、幼稚園・保育園・保育所の園児、講演会出席者、駅前施設の利用者				
	サブターゲット	市内小学校の4年生の家族、幼稚園・保育園・保育所の園児の家族、講演会出席者及び駅・駅前施設の利用者の知人や家族				
	ターゲットが抱える課題	4Rの推進について行動するものの、一過性の啓発に止まっており、幅広い減量の取り組みにつながりにくい。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	学校や地域、催し物など多方面において普及・啓発を行い、全世代がごみ減量への意識を向上させている状態。					
事業概要	市内の小学校・幼稚園・保育園・保育所において、ごみの処理や減量等についてを学ぶ環境学習の実施や、駅前・店頭における啓発キャンペーンの実施等により、「4R」の普及・啓発を行う。また、ごみ減量等に関する講演会とごみ減量フェア(小中学生によるポスターコンクールの作品展示やフリーマーケットの出店等によりごみ減量についての関心と理解を深めるイベント)を実施する。					

## 2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		全世代がごみ減量を意識した活動を行う。				ごみ減量に関して問題意識を持つようになる。				学校や地域、催し物など多方面においてごみ減量に関する各種啓発イベント等を実施。			
指標設定	指標説明	市民が行うごみ減量に関する行動の増加				ごみ減量に関する各種啓発イベント等への参加人数				ごみ減量に関する各種啓発イベント等の実施回数			
		単位		人		単位		人		単位		回	
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	2,230	2,230	2,230	2,230	22,377	22,377	22,377	22,377	67	67	67	67
	実績	33				3,957				29			
達成度	1%				18%				43%				
分析	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「ひらかた夢工房」の活動を自粛したことにより、目標とかけ離れてしまった。				令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「ごみ減量フェア」の中止、「駅前」でキャンペーンの活動自粛、小中学校の環境学習依頼が減少したことにより、目標とかけ離れてしまった。				令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎月実施を予定していた「駅前」でキャンペーン等を自粛したことにより、目標とかけ離れてしまった。				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	4.96
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人件費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	41,743	44,862	39,556		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	41,743	44,862	39,556		
	物件費計	1,954	2,277	1,139	1,241	92%	
歳出計		43,697	47,139	40,695			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	8,706	8,539	167	1,200		
	歳入計	8,706	8,539	167	1,200		
一般財源		34,991	38,600	972	41		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、イベントの中止や「ひらかた夢工房」の活動自粛等により市民が参加できるイベントができなかったことが目標指数にかけ離れた数値になった。
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境フェスタごみ減量フェアを新型コロナウイルス感染拡大防止措置をとり開催し、ごみ減量を推進する。</li> <li>・駅前・店頭等において、生ごみの水切りなどごみ減量キャンペーンを実施、また、中身入りスプレー缶の出張回収時にも同様に行う。</li> <li>・食品ロス削減事業「食べのこサンデー運動」の啓発活動を、ホームページやごみ分別アプリ等により行う。</li> <li>・小・中学校、高校、保育園等への環境学習に加えて、大学での学園祭や地域への出前授業などを行う。</li> </ul>

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	ごみ減量化対策事業(減量業務室)												
測定年度	2020(R2)年度				部	環境部				課	減量業務室		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4					
総合計画体系	基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち											
	施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち											
	実行計画名	25-1.ごみ総量の削減と資源化の推進											

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	1998(H10)年度		年度	~	年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						

事業対象	メインターゲット	校区コミュニティから推薦された廃棄物減量等推進員、ひらかた夢工房でごみ減量施策に沿った活動を行う市民ボランティア
	サブターゲット	廃棄物減量等推進員を推薦した校区の地域住民、ひらかた夢工房の利用者
	ターゲットが抱える課題	廃棄物減量等推進員が行うごみ減量化施策の地域住民への伝達や、ごみの減量意識向上に向けた啓発に行政の支援が必要。
	ターゲットが抱える課題	市民ボランティアの高齢化により活動量が減ってきているため、新たな市民ボランティアの募集を行うなど世代交代に取り組む必要がある。

めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	廃棄物減量等推進員を含めた市民ボランティアの活動が活性化することでごみ減量につながる。
-----------------------	---

事業概要	ごみ減量施策の地域住民への周知・啓発へ協力いただき、校区コミュニティの推薦により任命された廃棄物減量等推進員を設置し、また市民ボランティアで構成されたひらかた夢工房の管理・運営、生ごみの堆肥化事業など、市民やNPO団体との協働により、ごみの減量に取り組む。
------	--

## 2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)			
ロジックモデル		廃棄物減量等推進員を含めた市民ボランティアの活動が活性化することでごみ減量につながる。				市民のごみ減量に関して触れる機会が増える。				廃棄物減量等推進員を含めた市民ボランティアとの協働による、ごみ減量の意識啓発等を実施。			
指標設定	指標説明	市民ボランティアの登録人数				啓発イベントへの参加人数				ごみ減量の意識啓発イベントの開催回数			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)	200	200	200	200	5,500	5,500	5,500	5,500	30	30	30	30
	実績	94				10				1			
	達成度	47%				0%				3%			
分析	目標としていた指数は、ボランティアの登録人数に会員も含めたものになっていたため実績が少なくなった。				令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により「ひらかた夢工房」の活動停止や自粛を行ったため、イベントを開催することができなかった。				令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により「ひらかた夢工房」の活動停止や自粛を行ったため、イベントを開催することができなかった。				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	4.30
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	15,107	34,473	34,293		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	15,107	34,473	34,293		
	物件費計	1,512	1,565	1,281	1,580	81%	
歳出計		16,619	36,038	35,574			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	3,002	6,794	0	0		
	歳入計	3,002	6,794	0	0		
一般財源		13,617	29,244	1,281	1,580		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「ひらかた夢工房」の活動自粛を指示した。そのため、イベントなど市民に啓発する活動ができなくなった。活動については、夢工房内での活動とし人数制限をした。
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	市民ボランティアと廃棄物減量等推進員によるごみ減量施策に沿った活動について支援を行う。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	ごみ置場開発協議事務													
測定年度	2020(R2)年度				部	環境部				課	減量業務室			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4						
総合計画体系	基本目標		5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち											
	施策目標		25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち											
	実行計画名													

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス		特性	非選択的事業		区分	非選択的事務事業				
事業期間	不明			年度	~		年度まで				
根拠法令等	枚方市開発事業等の手続等に関する条例										
関係補助金名称						サンセット	~				
関係附属機関名称											
事業対象	メインターゲット		ごみ置場を設置する開発事業者								
	サブターゲット		ごみ置場を使用する住民								
	ターゲットが抱える課題		・狭隘な土地、道路に面した土地に共同住宅を建設する場合、枚方市開発事業等の手続等に関する条例に基づいたごみ置場の設置ができない。								
	ターゲットが抱える課題		・ごみ置場を使用する住民より近隣の住民の理解が得られず、ごみ置場が設置できない。								
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭隘な土地や道路に面した土地に共同住宅を建設する場合、ごみ置場を設置するスペースを確保することで、枚方市開発事業等の手続等に関する条例に基づいたごみ置場の設置ができる。または、近隣住民の理解を得た上で、近隣にある既存のごみ置場を利用することができる。</li> <li>・開発業者等に対し、事前協議を行うことにより適正な指導ができ、また近隣の住民の方も説明を行うことによりごみ置場への理解が得られ、ごみ置場を確認できる。</li> </ul>										
事業概要	枚方市開発事業等に関する条例に基づき、開発者等と事前協議を行い、検査にてごみ置場を確認する。										

## 2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)					
						各事前協議の上、適切な指導を実施する。				開発事業に伴うごみ置場の設置について、事前協議を受け付ける。				
指標設定	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)					
	指標説明				適切な指導を行った件数				ごみ置き場の適正な設置に向けた協議の受付件数					
	単位				単位				単位					
	件				件				件					
	指標種類				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標					
	指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)						150	150	150	150	150	150	150	150
実績						136				136				
達成度				91%				91%						
分析				目標(見込み)より減少				目標(見込み)より減少						

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	2.05
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	16,300	16,435	16,349	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	16,300	16,435	16,349	
	物件費計	0	55	0	0	—
	歳出計	16,300	16,490	16,349		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	3,239	3,239	0	0	
	歳入計	3,239	3,239	0	0	
一般財源		13,061	13,251	0	0	

#### 5. 総括的分析

総括的分析	開発事業等において、ごみ置場の設置等の指導を行った。(136件)
-------	----------------------------------

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	公共施設であるごみ置場の設置等に関する事前協議等において、適正指導を行うとともに、検査にて適正なごみ置場を確認・確保する。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	再生資源集団回収報償金制度運用事業											
測定年度	2020(R2)年度			部	環境部			課	減量業務室			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4				
総合計画体系	基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち										
	施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち										
	実行計画名	25-1.ごみ総量の削減と資源化の推進										

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業	
事業期間	1994(H6)年度		年度	~	年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	営利を目的としない市内に居住するもので構成する団体				
	サブターゲット	再生資源集団回収に参加する地域住民				
	ターゲットが抱える課題	新聞の購読率減少で全体の回収量が減ってきている一方で、リサイクル対象となっている雑がみ等が集団回収されずに焼却ごみとして排出されている。また、自治会等の団体がいない地域では、本制度を利用できない。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	焼却ごみとして排出されている雑がみも報償金の対象となることを登録団体に周知する。また、制度の周知を行い、古紙回収を実施しているにもかかわらず本制度への登録をしていない自治会や地域について、団体登録をしていただき、本制度を利用していただく。回収量に応じた報償金を受けられることから、ごみの分別意識が向上し、焼却ごみの減少につながる。					
事業概要	平成6年7月から、再利用可能な品目の資源化によるごみ減量を促進するため、6ヶ月間に定期的に3回以上、古紙や古布等を回収し再生業者に引き渡している子ども会等の市内に居住する者で構成する非営利団体に対して報償金を交付する再生資源集団回収報償金制度を行うことで、焼却ごみの削減を図る。 ※再生資源集団回収報償金制度とは、再利用可能な資源の集団回収を自主的に実施している団体に対し再生資源集団回収報償金を交付することにより、ごみの減量及び資源の有効利用並びにごみ問題の意識向上を図ることを目的とするものであり、団体はあらかじめ、再生資源集団回収登録申請書を市長に提出しその登録を受ける。また、7月及び1月にそれぞれ前月までの6ヶ月分の再生資源集団回収報償金交付申請書を市長に提出し、1キログラム当たり4円の報償金の交付を受ける。					

## 2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	制度を利用していただくことで再生資源回収率の向上につながっている。				アウトプット (活動結果)	各団体により、再生資源の回収量が増える。				インプット (活動)	再生資源集団回収を実施している団体に対して、報償金を交付する。			
	指標説明	再生資源ごみの資源化率 資源化率=資源化総量/ごみ処理総量 (%)				登録団体数				制度の周知回数					
指標設定	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標					
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5		
	目標 (見込み)	22.70	22.90	23	23.10	609	609	609	609	5	5	5	5		
	実績	20.90				608				2					
	達成度	92%				100%				40%					
分析	新聞の購読低下により毎年回収量が減っており、今後も減少する見込みである。ごみ処理(一般ごみ)の総量が減少すれば目標値に近づく。				新規登録が2団体あったが、子ども会の活動廃止等により3団体の子ども会が登録廃止をしたことにより減少した。今後も減少傾向が予測される。				報償金申請は7月と1月に行っていることから、このタイミングに制度の周知をただけになった。						

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	1.52
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	9,541	12,346	12,122	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	9,541	12,346	12,122	
	物件費計	58,193	54,540	47,355	60,130	79%
	歳出計	67,734	66,886	59,477		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	1,896	2,433	0	0	
	歳入計	1,896	2,433	0	0	
一般財源		65,838	64,453	47,355	60,130	

#### 5. 総括的分析

総括的分析	アウトカム 資源化率:再生資源集団回収量(11,815.14t)／一般ごみ(56,521.60t)≒20.90% アウトプット 令和元年4月1日登録数609団体・年度中の廃止届3団体・新規登録2団体
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	・広報誌等で制度への登録を呼びかける。 ・再生資源集団回収報償金の交付申請に基づき報償金を支給する。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	塵芥収集業務												
測定年度	2020 (R2) 年度				部	環境部				課	減量業務室		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち										
	施策目標		25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち										
	実行計画名												

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	非選択的事業	区分	非選択的事務事業
事業期間	不明		年度	~	年度まで
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律				
関係補助金名称				サンセット	~
関係附属機関名称					

事業対象	メインターゲット	枚方市民
	サブターゲット	
	ターゲットが抱える課題	市民サービスを低下することなく、効果的・効率的な収集体制を確立すること。
	ターゲットが抱える課題	

めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	災害発生時や緊急時等において、市民生活への影響を最小限に抑え、市民サービスの低下がなく迅速に対応できるようセーフティネットを踏まえた効率的な収集体制を確立する。 高齢や要介護等を理由に屋内のごみを出すことが困難な世帯に対しごみ出し支援をおこない、市民サービスの拡充を図る。
---------------------------	---

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「一般ごみ」は市域を2ブロックに分割し、それぞれのブロックごとに週2回の指定曜日を定めて収集する。(定曜日収集方式)</li> <li>「資源ごみ(ペットボトル・プラスチック製容器包装)」は市域を5ブロックに分割し、それぞれのブロックごとに週1回の指定曜日を定めて収集する。(定曜日収集方式)</li> <li>「資源ごみ(空き缶、びん・ガラス類)」、「紙類(新聞紙、段ボール、雑誌・雑がみ)」は市域を10ブロックに分割し、それぞれのブロックごとに月2回の指定曜日を定めて収集する。(定曜日収集方式)</li> <li>「粗ごみ・大型ごみ」は電話及びインターネット予約による申し込みにより収集する。ただし、粗ごみと大型ごみそれぞれの区分ごとに1世帯、月1回6点までに限る。(戸別収集方式)</li> <li>「臨時ごみ」は電話申し込みにより収集する。申し込み回数や収集回数の制限を設けない。(戸別収集方式)</li> <li>「資源ごみ(使用済小型家電)」は市内の公共場所や協力店舗に専用の回収ボックスを設置し、週1回収集する。(拠点回収方式)</li> <li>「資源ごみ(水銀使用廃製品)」は市内の公共場所や協力店舗に専用の回収ボックスを設置し、週1回収集する。(拠点回収方式)</li> <li>「ふれあいサポート収集」は、一人暮らしでホームヘルプサービスを利用し、かつ要介護1以上または障害等の要件に該当する世帯に対し、日常のごみ(一般ごみ・資源ごみなど)を市職員が玄関先まで収集に行く。(当該サービス利用者に限り、屋内の大型ごみの持出し収集をする。)</li> <li>「大型ごみ持出しサポート収集」は、ふれあいサポート収集を補完する事業として、世帯構成(同居)するすべての者が、要介護1以上等の要件に該当する世帯に対し、平成28年4月から「大型ごみ持出しサポート収集」を開始。(特別交付税措置あり)令和3年度から「大型ごみ持出しサポート収集」の対象要件を緩和して、「要支援1以上及び75歳以上」の要件についても対象とする。</li> </ul>
------	---

## 2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル						家庭系一般廃棄物(ふん尿を除く)を迅速かつ適正に収集する。				各種ごみ効率よく収集できるよう、収集方式を定める。			
指標説明						収集を行う日数				収集方式数			
指標種類		単位				単位				単位			
指標設定		R2 R3 R4 R5				R2 R3 R4 R5				R2 R3 R4 R5			
指標数値		目標(見込み)				258 258 258 258				3 3 3 3			
		実績				258				3			
達成度						100%				100%			
分析						安定的な収集業務を実施できたと考え。				効率的・効果的な収集業を実施できたと考え。			

ロジックモデル②	アウトカム (活動効果)					アウトプット (活動結果)	大型ごみ持出しサポート収集の利用者数が増加することで、高齢者や要介護者等が自立的な日常生活を維持できる。				インプット (活動)	大型ごみ持出しサポート収集の利用希望者が増加する。			
	指標説明					アウトプット (活動結果)	大型ごみ持出しサポート収集の実施件数				インプット (活動)	大型ごみ持出しサポート収集の相談件数			
指標設定②	指標種類	単位				単位 件				単位 件					
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標					
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5		
	目標 (見込み)					40	400	400	400	40	400	400	400		
	実績					18				57					
	達成度					45%				143%					
分析					当該制度に関する、理解度があまり浸透していないため、利用件数が伸び悩んだ。				相談件数内容としては、要件対象外での要望や大型ごみではなく、粗ごみなど実施に至らない件数があった。						
ロジックモデル③	アウトカム (活動効果)					アウトプット (活動結果)	大型ごみ持出しサポート収集の利用希望者が増加する。				インプット (活動)	大型ごみ持出しサポート収集の対象要件の緩和を行う。			
	指標説明					アウトプット (活動結果)	大型ごみ持出しサポート収集の相談件数				インプット (活動)	対象要件緩和の周知			
指標設定③	指標種類	単位				単位 件				単位 回					
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標					
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5		
	目標 (見込み)					40	400	400	400	3	3	3	3		
	実績					57				4					
	達成度					143%				133%					
分析					相談件数内容としては、要件対象外での要望や大型ごみではなく、粗ごみなど実施に至らない件数があった。				広報やホームページでの周知を行ってきたが内容等理解していただくような詳細な内容を周知する必要がある。						

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	128.13
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	11.12
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	1,130,461	1,107,857	1,021,837	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	36,714	0	33,944	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	1,167,175	1,107,857	1,055,781	
	物件費計	545,199	588,140	836,320	835,624	100%
	歳出計	1,712,374	1,695,997	1,892,101		
歳入	国庫支出金	1,556	0	0	0	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	214,821	204,163	1,979	1,994	
	歳入計	216,377	204,163	1,979	1,994	
一般財源		1,495,997	1,491,834	834,341	833,630	

#### 5. 総括的分析

総括的分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭系一般廃棄物収集全般として、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響があったものの、事務所の分所や2人乗務運営などにより、サービス水準を低下することなく運用することができた。</li> <li>・大型ごみ持ち出しサポート収集については、実施件数18件に対して、要件対象外で未実施件数が57件あったことに関して、今後の高齢化率の高まりを考慮して、要件の緩和に向け検討する必要がある。</li> </ul>
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	収集体制が縮小される中、効率的・効果的なごみ収集業務体制構築に加えて、スピード感のある実効的な収集体制を構築を目指す。 市民サービスの拡充については、「大型ごみ持ち出しサポート収集」事業の要件の緩和等、視野に入れ、ごみ減量を踏まえた体制構築を目指す。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	粗大ごみ等受付事務												
測定年度	2020(R2)年度				部	環境部				課	減量業務室		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち										
	施策目標		25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち										
	実行計画名												

## 1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业		区分	一般事務事業						
事業期間	不明		年度	~	年度まで							
根拠法令等	決裁											
関係補助金名称				サンセット	~							
関係附属機関名称												
事業対象	メインターゲット	「粗ごみ」、「大型ごみ」、「臨時ごみ」、「動物の死体」、「持ち込みごみ」の排出を行う枚方市民										
	サブターゲット											
	ターゲットが抱える課題	市民が粗大ごみ等を排出するにあたり、連絡すべき場所等が分からなくなり、混乱を招く。										
	ターゲットが抱える課題											
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	粗大ごみ等排出の依頼に対し、適切に処理できている状態。											
事業概要	・粗大ごみ等電話予約受付は、「粗ごみ」、「大型ごみ」、「臨時ごみ」、「動物の死体」、「持ち込みごみ」に分類して収集 予約の受付を行い戸別収集をする。また、「粗ごみ」、「大型ごみ」は、インターネットによる予約受付も合わせて行う。											

## 2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		粗大ごみ等排出の依頼に対し、適切に処理できている。				依頼のあった粗大ごみ等について、受付を行う。				粗大ごみ予約センターを設置し、粗大ごみ等の排出に関する依頼を受け付ける。			
指標説明		粗大ごみ等の収集量 (指標数値:H26~H30の平均収集量)				粗大ごみ予約センターの受付件数				粗大ごみ予約センターの受付日数 (指標数値:実営業日数)			
		単位		トン		単位		件		単位		日	
指標種類		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
指標設定	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)	5,860	5,860	5,860	5,860	300,000	300,000	300,000	300,000	257	257	257	256
	実績	7,089				350,295				257			
	達成度	121%				117%				100%			
	分析	目標(見込み)より大幅に増加				目標(見込み)より大幅に増加 【受付詳細】電話受付:215,390件 FAX受付:153件 インターネット受付:134,752件				目標(見込み)どおり			

3. 人員体制 (人)

	R2
正職員(再任用)	1.65
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	13,119	8,017	13,159		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	13,119	8,017	13,159		
	物件費計	56,141	58,003	63,736	60,369	106%	
	歳出計	69,260	66,020	76,895			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	2,607	2,607	0	0		
	歳入計	2,607	2,607	0	0		
一般財源		66,653	63,413	63,736	60,369		

5. 総括的分析

総括的分析	新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う外出自粛中に片付けなどの影響により粗大ごみの排出が大幅に増加した。なお、数年は影響があると予想される。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	今後は、粗大ごみのインターネット予約の更なる促進に努める。また、インターネット予約申込者を対象に、ごみに関する情報をメールマガジンで発信し、市民サービスの向上を図る。

# 事務事業実績測定調査

事務事業名称	減量業務室運営事務										
測定年度	2020(R2)年度			部	環境部			課	減量業務室		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4			
総合計画体系	基本目標	9.施策体系外									
	施策目標	99.施策体系外									
	実行計画名										

## 1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務	区分	庶務的内部管理事務	
事業期間	不明		年度	~	年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	事務を行う減量業務室職員				
	サブターゲット					
	ターゲットが抱える課題	編成作業については、1人の職員が行う必要がある事務が多くあり、分散する仕組みが必要である。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	編成作業を分担で行う。					
事業概要	・備品・消耗品の購入や塵芥収集車両などの管理、委託業務の手続き、収集コース編成など効率的な業務運営が行えるよう執行体制の維持を図る。					

## 2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
指標設定		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
指標説明													
		単位				単位				単位			
指標種類													
指標数値	目標 (見込み)	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	実績												
達成度													
分析													

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	9.19
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	1.54
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。  
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費\_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。  
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

#### 4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	116,880	76,162	73,290		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	5,185	3,965	5,931		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	122,065	80,127	79,221		
	物件費計	90,021	113,712	80,355	84,426	95%	
	歳出計	212,086	193,839	159,576			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	26,632	18,060	869	1,195		
	歳入計	26,632	18,060	869	1,195		
一般財源		185,454	175,779	79,486	83,231		

#### 5. 総括的分析

総括的分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備品・消耗品の購入や塵芥収集車両などの管理、委託業務の手続き、収集コース編成など効率的な業務運営が行えるよう執行体制の維持を図った。</li> <li>・「無事故無違反チャレンジコンテスト」応募、職場独自で安全運転・安全作業研修を実施し、意識向上を図った。</li> <li>・ごみ収集日カレンダーを作成し、校区コミュニティ協議会会長及び廃棄物減量等推進員等に配付した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言等の発令に対し、職員への感染予防対策を講じるとともに業務維持・継続に向けた体制を構築した。</li> </ul> <p>※ 平成27年度以前は減量総務課所管であった旧環境事業部所管公用車(塵芥収集車両等)管理事務は、平成28年度から減量業務室に移管し、本事業の一部となった。また、従来本事業としていた「粗大ごみ等受付事務」は、平成28年度から別個に事業設定を行った。</p>
-------	--

#### 6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、備品・消耗品の購入や塵芥収集車両などの管理、委託業務の手続き、収集コース編成など効率的な業務運営が行えるよう執行体制の維持を図っていく。